



# たろはな

一般社団法人  
日本ボーイスカウト  
静岡県連盟

〒420-0068  
静岡県静岡市東区1-70-1  
（静岡青少年会館内）



静岡第14団 伊豆100kmサイクリング (5頁)



磐田第3団・掛川第2団 合同キャンプ (4頁)



静岡第10団・第22団 合同キャンプ (2頁)



お宅訪問 尾崎志郎さん宅 (8頁)

## CONTENTS

静岡第10団・第22団 夏合同キャンプ	2	遠き記憶 第2回	11
磐田第3団・掛川第2団 夏合同キャンプ	4	いつも元気だっ!ビーバーだより	12
静岡第14団 伊豆100kmサイクリング	5	カブつうしん	12
静岡地区とシンガポールスカウトとの国際交流	6	ボーイ通信	12
ベンチャースカウトフォーラム	7	指導者だより	14
お宅訪問 尾崎コレクションに学ぶ	8	2020年度 ユースチーム静岡 名簿	15
お宅訪問 私の「捨てられない思い出」	9	友情章 おめでとう25名の仲間	15
第7回 若き指導者		お知らせコーナー	16
金谷第3団 ビーバー隊 隊長 浅原 拓洋	10		

令和2年10月  
第161号

# 静岡第10団・22団 夏合同キャンプ

日時: 8月7日(金)~12日(水) 場所: 遊木の森



## 静岡第10団・第22団 合同夏キャンプを 終えて

静岡第22団BS隊 隊長 富田 和伸

今年予定されていた第3回東海4県合同野営大会が延期になってしまいました。緊急事態宣言が発令され、屋外でのキャンプも禁止となってしまいましたが、7月に県連盟より「条件を満たせば実施してもよい」と通知がありました。私は

これを聞いて、BS隊は例年この時期、屋外で野営し様々な技能を学ぶ成長の時期であるため、市内の10団さんと話し合い、今回のキャンプを実施する決心をしました。

決心はしたものの、自分が主になってキャンプの計画をするのは初めてで、日程決めや備品の確認、食材の準備など、やらなければならないことがたくさんあり、他のリーダーや保護者の支援がなければとても成し得ませんでした。

実際キャンプが始まると、屋外の空気、温度、風、空、すべてが気持ち良く、いつもは追い払う昆虫でさえも愛おしく思えました。久しぶりのキャンプだったので、スカウトのキャンプに対する気持ちについて少し心配していましたが、両班長がよく意見を出し合い、持ち前の明るさで良い雰囲気でキャンプに入ることができ、両班長には感謝しています。

合同キャンプの良いところは、スカウト同士刺激し合えることの他に、リーダー同士のスキルを補い合えることだと思います。私のスキルなんて、10団のリーダーの足元にも及ばないので、正直助けてもらうことばかりでしたが、ほんの少しだけ役に立てたと思う瞬間があり、それがなんとも嬉しかったことを覚えています。

また、団委員長や団委員の方も駆け付けてくださり、夕食を共にし、キャンプファイヤーをしたことにとっても感動しました。普段集会などでお話を聞くことしかない方々と、一緒に歌ったり踊ったりしたことは、スカウトにも貴重な体験だったと思います。

今回、このキャンプを実施するにあたり、試行錯誤しながら、10団のリーダーさんと相談し、準備し、実施し、無事に終わることができ、ホッとすると共に、改めて屋外での活動の大切さ、みんなでキャンプすることの楽しさ、自分の技能不足などを感じる事が出来ました。

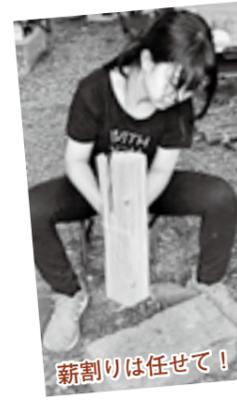
最後に、奉仕して下さった保護者の皆様、両団のリーダーの皆様、そしてスカウトに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



このサインは何か?



担当班の交代



薪割りには任せて!



夕食はパエリャ!



火を確認!

## まだまだ未熟 静岡第22団 ボーイ隊 海野 恭丞

コロナ禍の中行うことのできた合同キャンプは、昨年秋から担ってきた班長として参加した最初で最後のキャンプとなりました。

今まで先輩の班長の、的確な指示、少し強引ではあるもののスケジュールに間に合わせようとする姿、他にもたくさん見てきて、正直同じことができると思っていました。しかし考えは甘く、班員を時間通りに動かすことができず、また、自分のことで頭がいっぱいになったり、理想とは程遠い班長でした。原因には、役割分担をしたものの、人数が少なく仕事が回らなかったこと、そして何より自分の班長としての未熟さだったと思います。

ボーイ隊として行った最後のキャンプは、未練と後悔の残ったものになってしまいました。ですが、人数の少ない中で、仲間と協力して頑張れたのは良かったと思います。今回の経験を今後の活動に活かしていきたいと思えたキャンプでした。



キャンプファイヤー

## 初めてだらけのキャンプ 静岡第10団 ボーイ隊 稲村 亜弥

今回のキャンプは、私にとって初めてだらけのキャンプでした。まず、コロナ禍の中行われたキャンプだったので、テントは1人1つだったことや、お風呂に入れたこと、5泊6日という経験した事のない長期キャンプだったこと、そして一番大きかったのは、班長という初めての立場でキャンプをしたことです。

今まで次長という立場で班長を見てきて、正直簡単な仕事だと思っていました。でも実際に班長として経験してみると、自分の中で時間配分が出来ていなかったり、人数が少なく、思っていたように進められなかったり、自分のことに精一杯で、周りを見る事が出来ていなかったりと、想像していたより遥かに大変で、班長としてまだまだだということを感じました。キャンプ中、こんな班長を支えてくれた仲間に、本当に感謝しています。

今回のキャンプで学んだ失敗や反省をつぎに活かし、班長としての自覚と責任を持ちながら、これからの活動を行っていきたいです。





## 磐田第3団・掛川第2団 夏合同キャンプ



ローパーリングは  
電源である

磐田第3団ボーイ隊長 熊谷 正和

「私はローパーたちが、これに対して忠実な支援をおくってくれること、ならびに、ルールを守って、ローパーリングをして、スカウト精神生産工場たらしめるだけでなく、スカウティングの全ての部門が、本当の電力をそこから引くことのできる発電所とするように、このローパーリングを、最善の水準にあげることを望む」1956年英国のローパスカウト制度改正時に当時の総長ロード・ローラン氏があげた言葉です。本年度磐田3団ボーイ隊夏期訓練は8/12～14磐田市旧豊岡東小学校で行いました。感染対策を班長と検討し、班長以外は泊はせず夜は帰宅することとなりました。プログラムはGBで組みあげました。隊長として一連の想定文を設定し、すべてこれに沿い暗号文や指令書を作成、この作業に継ぎ込めました。というのも今回は磐田3団掛川2団ローパー隊の全面的なバックアップがあったおかげです。恥ずかしながら自団ローパスカウトは副長、副長補のみの活動となっており私自身もシニアでこの活動から離れていたためローパーリングが出来ておりませんでした。今回掛川ローパスカウトと合同でそれが出来て感謝の限りです。今後ともローパーリングを推進したいと考えます。



経験のキャンプ

磐田第3団ボーイ隊長 蔵元 朝日

僕は今年から次長になりました。次長は班長がいないとき、班長の代わりもします。僕はこのキャンプで一日目に班長の代わりとして一日を過ごしました。僕が自分で班員に指示を出すのは初めてでした。ですが上級班長が出てくれたアドバイスを聞いたりして班員に指示を出せました。このときの班員は六年生が三人だけだったのでなかなか思うように作業が進まず、しかもこの日はとても暑かったのでみんなすぐ疲れてしまいました。同じく僕も疲れましたが、休憩をこまめに入れながら作業を少しずつ確実に終わらせていきました。その日は初めてやったことが多くとてもいい経験をしました。そして同時に班長の大変さや班長がなくてはいけないことを学びました。このキャンプは自分にとって多くの事を学ぶことが出来た貴重な夏の思い出になりました。



## 静岡第14団 伊豆100km サイクリング

日時:8月20日(金)～22日(日)

静岡第14団ベンチャー隊 副長 寺田 万友

世界スカウト環境バッジの取得を目標に、自然環境をテーマにした隊プロジェクトを企画しました。当初は富士山登頂プロジェクトを考えていましたが、コロナ禍の影響で山小屋と登山道が閉鎖となり、改めて、ユネスコ世界ジオパークである伊豆半島を舞台にしたサイクリング計画となりました。ベンチャー会議を重ねながら、訪問先のジオサイトを選び、それぞれを結ぶ総距離100キロのサイクリングコースを検討していきました。プロジェクトでは、石廊崎、恵比須島、爪木崎、龍ヶ崎海岸の4つのジオサイトを巡りました。起伏の激しいコースと8月の暑い日差しが彼らを苦しめましたが、脱落者もなく無事に完走しました。どのジオサイトも地の果てを想わせる美しい姿をしており、海底火山による地球の息吹とダイナミックな大地創造の痕跡を観察することができました。

これを期に、地元静岡の自然豊かな環境を考えるきっかけになってくれたらよいと思います。



静岡第14団ベンチャー隊 大場圭一郎

私たちは電車を乗り継いで、下田から南伊豆、東伊豆のジオパークをめぐる2泊3日のサイクリングを行いました。このサイクリングは、世界環境バッジの取得を目指すとともに、技能章取得を目指すものでもありました。実施に至るまで、コロナの影響でZOOMやLINEを利用したオンライン会議を実施して、滞在地、ルート、訪問地の変更などにも臨機応変に対応してきました。そしていざ当日、私たちを待ち受けていたのは真っ青な綺麗な海、大地創造を物語る岩、そして繰り返す急なアップダウンでした。折角海が綺麗な伊豆に来たなら海に入らずにはいられないと思い、シーカヤック、シュノーケリングを体験しました。2日目の道中も恵比須島、爪木崎でも海水浴をしました。2日目は雲一つない晴天で、炎天下の中のサイクリングでしたので、海に入ってクールダウンできました。このサイクリングの総評としては、良い意味でも悪い意味でも予定通りではありませんでした。悪い意味では、2日目は上り坂の強行突破による疲労のため、休憩が多くなり、炎天下により予定より2時間ほど遅れが生じました。良い意味では、3日目、スタート時間を6時30分出発に変更するという厳しい選択をしたことが功を奏して、結果として大雨の前にゴールすることができました。3日目の下田から城ヶ崎海岸は、当初、7時間かける工程でした。前日の疲れがあり、上り坂の大半を歩き、下り坂で時間を稼ぐという方法で走りました。2日目と異なり、幸いにもこの日は曇りで、天候に恵まれました。そのおかげで、予定より3時間ほど早くゴールしました。ゴール後、レストランで昼食をとっていると大雨が降ってきて、もし当初の時間通りに行っていたら雨に降られていたなどと思いました。いろいろな苦労がありましたが、このサイクリングをメンバー全員がリタイアすることなく完走し、予定通りすべてのジオパークを回れたので、良かったと思います。プロジェクト実施後、報告書を作成し、チーフとしての任務をまっとうできました。

## 静岡地区とシンガポールスカウトとの 国際交流

静岡地区 シンガポールタスクチーム  
松田 茂(静岡第27団)

### <シンガポールとの交流>

2014年にシンガポールのカブ隊が静岡を訪れ、静岡地区との国際交流がスタートしました。2016年には静岡地区のカブ&ボーイ隊がシンガポールを訪れ相互交流が始まりました。これまでにシンガポールからの静岡訪問3回、静岡地区からのシンガポール訪問も3回実施しております。2020年3月にも静岡のスカウトがシンガポール訪問する計画でしたが、今回のコロナ感染のために延期することとなりました。

### <オンライン交流会>

シンガポールのローバー隊が富士登山への挑戦を計画しております。「静岡に行くために日本語を勉強したい」との要望があり、それならオンラインで静岡のスカウトと交流して勉強しよう、と今回のオンライン交流会が実現しました。静岡地区から参加したボーイ&ベンチャーは初めてのチャレンジで戸惑いもありましたが、海外のスカウト仲間との楽しい時間を過ごす貴重な体験ができました。

<シンガポール隊オンライン交流会> 日時:7月11日

静岡第14団ベンチャー隊 徳澄 要

毎年静岡地区と交流しているシンガポールスカウト指導者の企画で、シンガポールのローバースカウト達と日本語と英語を通してオンラインで交流する機会を得られました。コロナ禍でなかなか直接の国際交流が出来ない中で、インターネットという媒体を経由して自宅に居ながらにして世界中と繋がることが出来、手軽に異文化に触れることを再認識できた機会でした。

今回のイベントでは、シンガポールのスカウト達と、日本語と英語を取り混ぜて、挨拶の仕方や好きな食べ物などの話をしたり、画面越しにクイズゲームをしたりしました。彼らは今回の企画にとっても積極的に参加してくれて、会話や質問が途切れることなくあっという間に予定の時間をオーバーしていました。



この機会を通して、昨年の世界スカウトジャンボリーでフィンランドのスカウトと肩を組んで歌った時のような、とても楽しく充実した時間を思い出させてくれました。オンラインでの国際交流でもスカウトらしい活動は出来るのを実感したと同時に、やはり自然の中で直接ふれあう交流出来る日が戻ってくることを祈るばかりです。今回の貴重な機会を作ってくれたシンガポール隊指導者のウィ・ジンさんに感謝です。



## ベンチャースカウトフォーラム

日時:9月6日(日) 場所:青少年会館

副コミッショナー/  
進歩国際委員会副委員長 澤田 浩久

ベンチャースカウトフォーラムとは、隊、地区、県連盟、全国と、各段階でベンチャースカウトが討議をして自分たちの考えをまとめ、意見や提言を採択して、全国のベンチャースカウトが各地域で活動していくために開催しており、全国フォーラムは今年で23回目を迎えます。



本当にそんなことができるのか? 皆さんもよくご存じの「スカウトの日」の活動。これも始まりは第1回シニア(現在のベンチャー)スカウトフォーラムで、全国的に展開していくことが採択された活動です。確かに一人ひとりのスカウトの声は小さいかもしれませんが、ですがその声が集まり、全国のベンチャースカウトの大きな声となれば、このように大きな動きになることができるのです。

9月6日に県連盟第1回ベンチャースカウトフォーラムを開催しました。今年度のテーマは「私たちにできる社会貢献とは」です。これまで行ってきた奉仕活動を振り返り、地域にはどのような社会課題があるのかを考え、そして地域の人々とも連携しながら何ができるのかを討議しました。今年はコロナ禍の影響もあり、初のオンライン会議併用で行いましたが、活発な意見交換がなされ、県代表に焼津第2団の島山さんが選出されました。

島山さんは11月の全国フォーラムにオンラインで参加し、結果を県連盟に持ち帰ってきます。その内容に基づいて地区や隊で社会貢献活動に実際に取り組みますので、皆さんで県代表を応援してください。



### ベンチャーフォーラムに参席して

焼津第5団ベンチャー隊 隊長 福田 健一

今回は初の試みもあり、どのような雰囲気になるか楽しみと心配が半々の気持ちで参加させて頂きました。複数会場での進行のためか、これまでのフォーラムで感じてきたスカウト達の団結した空気感はあまり生まれず、スカウトが自ら進んで発言する場面は少なかったように感じました。ですが、進行役のローバースカウトが皆に気を配ってくれたため、代表スカウト全員が意見を述べる事ができ、代表としての役割をきちんと果たすことができていると思います。地域への社会貢献を通して、ボーイスカウトについて広く知ってほしいというスカウトたちの想いが伝わってきました。各代表が紹介してくれた団や地区の取り組みについて、今後更に活動を進め、私たちにできる社会貢献とは何なのか?を、深めていってくれることを期待しています。



# お宅訪問

## 県連100周年の歴史を語る 尾崎コレクションに学ぶ

静岡第10団ボーイ隊 隊長 尾崎 志郎

◎来年静岡県連100周年を迎えるに当たり、静岡少年団発足に尽力し日連・県連の要職を歴任された尾崎元次郎氏(1870~1945)と次男で日本初のボーイスカウト隊を設立した尾崎忠次先達(1899~1990)の遺品閲覧、及び現在もボーイ隊の指導者を務めるご子息尾崎志郎氏のお話を伺うため静岡市葵区安西の尾崎氏宅を訪問しました。



尾崎 志郎氏

「そもそもボーイスカウトに入隊したのは父忠次から誘われ、垣根結びを教わったことからロープワークに嵌まったのが切っ掛けです。森田実氏が静岡10団を設立し、中一の時に入隊しました。当時牛田民安氏が隊長で第2回~5回の日本ジャンボリーに参加しました。その後指導者としてカブ隊、ボーイ隊の隊長を重ねました。」「近年、やはりスカウトの数が減少するのは寂しいですね。根本的に若い世代を育て切れなかった自分たちの反省も感じます。」

「基本的にボーイ世代で技術を磨き、成長出来ないと後が続きません。個人の自主性を尊ぶ前に基本となる技能が身についていなければなりません。この世代で苦労することでその後の楽しさは倍増するように思えます。この年になると若い頃の楽しい思い出よりも苦しかったことの方が心に残っています。」

「やはりメリハリのない活動は好ましくありませんが、最近のスカウトは厳しく接すると辞めてしまいます。ボーイスカウトの魅力はなかなか分かってもらえません。ボーイスカウトの成長過程は改めて大人になって分かります。若い世代を伸ばすためにもローパー隊には隊集会の小間使いをさせるのではなくビジョンに満ちたプログラムを提供すべきだと思います。」

◎山荘をイメージされた何とも落ち着いた応接室で尾崎志郎氏は熱く語りました。



コレクションの思い出を語る



尾崎コレクションの数々



尾崎元次郎の木像と自筆書



尾崎元次郎氏



尾崎 忠次氏

# お宅訪問

## 私の「捨てられない思い出」

富士宮地区委員長 杉山 邦宏

◎富士宮地区委員長の杉山邦宏さんが過去53年分の登録証を保存されているとの情報を耳にしましたのでご自宅を訪問し、いろいろとお話を伺いました。

「スカウトになった当時は富士宮市を挙げて正に『ジャンボリー!』一色の時代。正にジャンボリー、ジャンボリーで湧いており、当時団委員の父親からもだいぶ煽られました。実際日本ジャンボリーにはスカウト・指導者と合わせて11回、世界ジャンボリーには2回参加しました。東京の学生時代は大学ローパーに参加しており、改めて地元富士宮に帰郷してから現在に至るまでボーイスカウトと供に人生歩んでおります。」

◎杉山さんは自社の運営する地域情報サイト『ぐるっと富士宮』で富士宮地区のボーイスカウト情報をリアルタイムで発信しております。

「当サイトで富士宮地区のボーイスカウト活動の最新情報を配信し続けております。一人でも多くの皆様にご理解頂ければ、と思います。」

◎これだけのスカウトグッズを収集された思いを一言で表しますと?

「特に収集してきたつもりはないです。一品一品忘れられない思い出が込められております。妻からは疎ましいがられておりますが、自分にとってこれまでのボーイスカウト活動の『捨てられない思い出』の数々です。」

「因みに1968年当時のスカウト手帳は自分にとってお守り同様、常に右側のポケットに忍ばせております。持っておられませんと逆に不安です。」

◎杉山さんの思い出話は止まるところがありません。



肌身離さぬスカウト手帳



近年の登録証



指導者になってからの登録証



思い出いっぱいのキャップ、ハット、スカーフ



当時は少年隊の登録証



証明証の数々

# 第7回「若き指導者」



金谷第3団ビーバー隊 隊長  
浅原 拓洋



私が“ボーイスカウト”という存在を初めて認識したのは、地元のお祭りで、屋台の先導をしているボーイのお兄さん達の姿を見た時だと思います。当時小学2年の私はベレー帽に強い憧れを持ちました。有り体に言えば制服フェチであり、私のスカウト活動の原点です。とても輝かしく、遠い存在だと感じていたボーイのお兄さん達と同じ年齢になり、追い越していき自らも憧れの制服を身につける頃には、数多くの後輩が入隊しており、自身が彼らの手本となるべく、スカウト活動に参加するようになっていきました。ボーイスカウトとは活動を通じて、自然と目上の人間との接し方と、後輩たち若年者への接し方を身に付けていくものだと思います。スカウトデーや隊を跨いだ活動をしていく中で、薄っすらと指導者になっていくという道に気づき、ゆるく進んだ結果が現在の私です。

正直なところ、学生時代に自身のスカウト活動や技能習得に力を注がなかった身としては、「子供達に何を教えることができるのか。」と思い悩む事も多くあります。ただ、ビーバースカウトの隊長として活動する中で、子供達には『自身が目指すスカウト』を見つけ、学んでくれれば良いと考えています。高い志を持って突き進むスカウトもいれば、友達と遊ぶのが楽しいから続けているスカウトもあります。私のようにゆるい指導者が居てもいいと思うのです。特にビーバーさんは小学校低学年で楽しさが1番にある年齢です。若さを武器にスカウトたちのお兄さんに、父兄の皆様の前にと、上から下から支えて頂きながら、スカウト活動の楽しさを広めていき、スカウト仲間を増やしていければと考えています。



## 遠き記憶... 第2回

### 【第7回日本ジャンボリー】

御殿場市 陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地  
1978(昭和53)年8月6日

静岡県連事務局長 瀧島 三郎  
(静岡県連盟派遣隊 静岡第8隊隊長 当時30歳)



右記写真、皇太子(当時)ご一家の隊訪問並びに昼食会(スカウトが作ったカレーをご一家と代表

スカウトで昼食会)時のものです。右の写真は渡辺総長とご一家が静岡第8隊を訪問、皇太子様がスカウトを親しく激励されている様子。ご一家でジャンボリーを訪問されたのはこれが最初で最後の貴重な写真です(左上が私)。左の写真は当イベントを担当した村松現理事長(前列中央)と私(2列目中央)、その横は古い指導者なら知っているカレーライス調理指導の寺尾重親氏、両人とも40年前にも結構いい仕事してたんだね。



後列の左から4人目が村松現理事長、2列目1番右側が私。静岡第8隊と関係者の記念写真です。皇太子(当時)ご一家との日本ジャンボリーでは最初で最後の貴重な、私にとってお宝ものの写真の1枚です。



## いつも元気だ!! ビーバーだより

### ビッグビーバーになったよ!

富士地区 富士第 14 団 ビーバー隊 齋藤 悠成

6月7日に上しんしきがありました。コロナのえいきょうですってえんきをしていたので、やっと上しんしきができてとてもうれしかったです。ボーイスカウトのみんなにひさしぶりにあって、元気そうでほくもうれしくなりました。

今年ビーバーにあたらしく2人の子が入ってきました。ぼくはビッグビーバーになりました。ビッグビーバーはぼくひとりだけです。一ばん上のおにいちゃんになったので、やさしく元気にみんなとあそびたいです。ものをたいせつにします。あたらしく入った2人のビーバーとなかよくしたいです。でもカブに上がったおにいちゃん、おねえちゃんがいなくなるとすこしさみしいです。

これから3人できょうそうしたり、いっしょにかんがえて色々なことにちょうせんしたいです。がんばります!!



## カブつうしん CUB SCOUT

### 思い出のカヌー

掛川・袋井地区 袋井第4団 カブ隊 門間 耗ノ助

8月23日、ぼくはカヌーをしました。カヌーに乗る前にたい長が乗り方を教えてくれました。カヌーは1年前にもしました。1年前はカヌーがにがてでした。でも、もう2年目からは1年前よりも上手にカヌーに乗ることができてうれしかったです。

そしてカヌーで川を走りました。風があたっけきもち良かったです。



ぼくはカヌーに乗っているときにこう思いました。『いつかカヌーで海を走って、外国へ行ってみたいです。』と思いました。カヌーたいけんができてよかったです。

### キャンプに行ったよ

磐田地区 豊田第1団 カブ隊 坂口 幸太郎

森のみくらで楽しかったことは、水遊びでした。水着は着てないけどポケットに入っていたふくろをつかひ、水風せんみたいなものをつくって友達に水をかけました。楽しかったです。川から上がったあと、ふくちょうやビーバーの友達といっしょに紙ねんどでこうさくをしました。テーマは生きものをつくることです。紙ねんどだったから作りにくかったです。作ったあと、なにを作ったかあてっこをしました。お昼ははじめてゆせんでお米をたきました。めっちゃかたかったです。夕食は、カルボナーラでおいしかったです。



## ボーイ通信 BOY SCOUT

### 新しい生活様式とスカウトスキル

浜松地区 浜松第12団ボーイ隊 鈴木 侑人

8月上旬に太田山野営場にて1泊2日のキャンプを行いました。コロナ禍では毎月1回のキャンプができずオンライン隊集会などをしていて、久しぶりの活動でした。コロナ感染予防のため、1週間前から毎身体調チェックをして、健康管理を徹底しました。今回は密を防ぐためドームテントではなく初めて各自でソロテントを設営しました。ソロテント内は話し相手がおらずシーンと静かで、虫の声や風の音、近くを流れる川の音を聞きながら、夜が深く長く感じました。セッションでは、フェイスシールドとマウスガードを作りました。自分の身を守る保護具を自分で作って実際に装着してみて、より感染予防意識が高まりました。また、互いに2m以上の距離を保った状態で手旗の練習をしました。僕はデモンストレーションを担当して、自分の名前など簡単な言葉を伝えました。手旗は会話に制限され、相手と距離がある時に便利に活用できると思いました。今後も新しい生活様式で求められるスカウトスキルを考えていきたいです。



## 作れ! 立かまどで昼食

清水地区 清水第8団ボーイ隊 中山 琳翔

7月19日地区合同BS集会がありました。

8団は2名の為、7団と17団で班を組みました。最初は多くのスカウトが集まって開会式をして、活動着に着替えて、他の団と合流しました。遅れてくる班員がいたため、少人数でメインの立かまどを作り始めました。まずは2人ではさみ縛りを、次に7団のスカウトと角縛りしました。2組を合わせて本体とし、割った竹で台を作り、上に銀紙を引き、土をのせて、完成しました。昼食作りは、作った立かまどで、ハムエッグとシラス混ぜご飯と味噌汁を作りました。

午後は、水に濡らした薪の火起こし体験でした。燃えやす

いように薪をナタで小さく切り、刻みを入れたものを数本作り、組み合わせで挑戦しました。何とか火がつけましたが、キャンプでは薪をぬらさないようにしたいと思いました。今回の合同集会で多くのスカウトと交流が出来て楽しかったです。



## 楽しかったカヌー体験 掛川・袋井地区 袋井第4団 ボーイ隊

### 鈴木 里彩

私は袋井4団の隊集会でカヌーをしました。カヌーを体験するのは2回目なので楽しく安全に出来ました。しばらくカヌーで上がったり下がったりして、自分がどれくらいの早さで往復できるのかはかってみました。

楽しくなってきたところに休けいの号令がかかり、休けい後にレースをするとのことでした。休けいが終わりレースが始まりました。レースはビーバー隊とわかれてやることになり、カブ隊とボーイ隊の勝負になりました。

1位にはなれなかったけれど、レースだと一人でやるときよりもたくさん笑顔になれたと思います。

### 太田 楓人

ぼくは大好きなカヌー体験をしました。ぼくはカヌーではバランス、パワー、コントロール、判断力が必要だと思います。なぜ必要かと思うかというのは、このような理由です。バランスが無ければ回転してしまいます。パワーが無ければ川を下ってしまいます。コントロールが無ければどんなにパワーがあっても思うように動けなくて、川の岸にぶつかってしまいます。最後の判断力が無ければ他の全てができても何かあった時に対応できなくなってしまいます。カヌーはそういうスポーツだと思います。人は得意不得意があります。ぼくはカヌーの種類で得意をカバーできると思いました。

バランスが苦手なら太めのカヌーで、パワーが無ければバランスは悪いですが細めのカヌーに乗るように選べるからです。細めのカヌーはスピードも出て良いですが、ぼくは安全に乗れるカヌーが良いです。半日カヌーにのって思ったのは、「やっぱりカヌーが大好き」です。

### 太田 弥人

カヌーは2回目の体験でしたが、漕ぐのはあまり得意ではないので正直好きとは言えません。ですが乗ってみると前回よりうまくできて前より楽しく感じられました。カヌーは交代で乗っていましたので、乗り降りの時にパドルの上に乗って体をカヌーに移動して乗りました。漕ぎ始めはぐんぐん進みますが、だんだん疲れてきて少し早めに交代しました。何回か乗ってみて最後のほうは上達した感じがしてうれしかったです。



## 私とボーイスカウト 沼駿地区 清水町第7団 ボーイ隊

灼熱の太陽を浴びながら仲間とともにこの夏はいろいろな体験と挑戦に心躍らせていました。しかし新型コロナウイルス感染症拡大により「新しい生活様式」を踏まえた教育活動・スカウト活動の自粛と十分な活動はできていませんが、スカウト達なりに努力している姿に好感をもちます。苦しいときだからこそ「ちかいとおきて」の根幹のもと、みんな力で合わせて頑張っていきたいと思います。

### 岡田 愛

私がボーイスカウト活動の中で、特に一番頑張っているのはロープ結びです。ロープ結びには数多くの結び方があり、使い道によって結び方が変わるので覚えて身につけるにはとても難しく大変です。私はまだ実際に日

常でロープ結びを多く活用したことはありませんが、とても必要な技術であると感じています。数ある中でのロープ



結びをこれからの活動の中でさらに技術を磨き、ハンドブックを見ずともそれぞれの用途に合ったロープ技術を身につけて活用できるように、努力していきたいです。(ロープ結びの達人になれるといいな・・・)

渡邊 夏希

私がボーイスカウト活動を始めたのは、幼稚園の年長からです。兄がスカウトとして毎回楽しそうに出かけていく後ろ姿を見て、自分も何となく興味がわき「やってみよう」という気持ちになり仲間に入りました。多くある活動の中でキャンプ・工作・奉仕作業・地域探検等、学校や家庭では学ぶことができないことをたくさん体験することができ、少しですが自信もついてきました。また、多くの仲間と助け合うことも教えてもらいました。これからもいろいろなことに挑戦し

さらに自分を磨き活動に努力していきたいです。



指導者だより

3密を避けての活動

富士宮地区 富士宮第9団カブ隊 隊長 二ツ神 正吉

例年と違って、野外活動が思うようにできない中ですが当カブ隊では、梅雨の晴れ間の広がった7月19日、富士市丸火自然の家で野外炊飯訓練を行いました。

活動内容は、炊事棟で火おこし、飯盒炊飯、豚汁作りで保護者等の協力で行い、午後は園内のハイキングでした。

3密対策として、①参加者全員の検温、健康チェック。②活動場所移動時、極力相乗り禁止。③調理時の衛生管理とナイロン手袋使用。④ハイキング時一定間隔を保つなどを行いました。

カブ活動は、密集、密接が多く、これを制限すると本来の活動や楽しさが薄れるのではないかと心配もありましたが、実際活動してみると、それなりにスカウトは楽しんでいました。

今後もコロナウィルスが収束するまでは、常に3密を避けながら活動しなければなりません。



日連や県連の指針に沿って、自隊ではどのようなプログラムを提供すればよいか、スカウトのためになるか、楽しい活動になるかを考え進めていこうと思います。

コロナに負けずに！

島田地区 島田第6団カブ隊 隊長 松浦 恵子

7月19日、当隊の夏季キャンプはコロナウィルスの影響下、安全を考慮してデイキャンプとなりました。活動の直前に市内に感染者の発生発表があり、隊内は大きくゆれました。学校の対応はどうか、スカウトたちの不安はどうか、保護者はどう思っているのか等々、デンリーダー、保護者でもある副長と、通信アプリ上で話し合いました。結果、恐れてばかりでは何もできません。できるだけ対策をして実行しよう。「私の勤めている保育園は、対策をきっちりやって毎日コロナと戦っています。」と言う副長の力強い言葉に後押しされ、実行を決めま

した。スカウトたちは、キャンプ地のわっぱ沢公園に電車、バス、歩きで行きました。各自それぞれ役割りを担い、組の役に立つことが目標です。食事の準備も密になり過ぎないように、メニューを分担して責任をもって作りました。カレー、サラダ、フルーツヨーグルト、焼きとうもろこし。美味しい昼食ができました。昼食後は、元気に川遊び。遊ぶスカウトたちを見守る保護者の方々のたくさんの笑顔。やっぱり活動してよかった。こんなときだからこそ、野外でのびのび遊ぶことは大切なんだなと気づいた活動でした。



ピンチなのか？チャンスなのか？

三島地区安全委員長 白井 豊章

今コロナ禍の影響で、皆さん様々な思いを抱いているのではないのでしょうか。

私などがこの10年間を一言でいうのはおこがましいのですが、「原点回帰」スカウティングの本来あるべき姿に戻そう！野外に出て活動を！そのための技能を！という色合が濃くあったように感じていましたが、このコロナ禍で、活動自粛、キャンプ、テント泊の禁止等、さまざまな通達が数多く出され、おうちスカウティング、リモート会議、リモート活動と様々なWEBを使った方法が推奨、実施されています。

当三島地区でも県連フェイスブックにある「この道をゆく」を地区有志で作成、配信し、今度は全県対象に「パトローリング」を作成しています。私などこのような状況、方法に追従していくだけで精一杯なのですが、皮肉なこと世の中ではキャンプがブームだそうで、私と同じように自身も含め本運動が必要とされているのか、戸惑い、混乱している方も多いのではないのでしょうか。

このコロナ禍で新生活様式が定着すると、今までの常識が非常識となり、非常識が常識となるかもしれません。いままでと同じ活動がしにくい今はピンチなのは確かです、しかし様々なことを今までと違った視点でとらえ、思い切った新たな方策を考え、大きく変える絶好の機会として、この新たな時代に対応し、生き残って行くチャンスだと思っているのは、いままで成果が出せずあがいてきた年寄りの「栄華之夢」なのでしょう。



おめでとう!! 25名の仲間が友情章を授与されました。

「友情章」は、君の友達に「スカウトになろうよ!」と言って、友達がスカウトに入るともらえる章です。記念品はネームプレートがもらえるよ。次は君が友達を紹介して「友情章」をゲットしよう!

令和 2 年 8 月度「友情章」顕彰者名簿

組織拡充・広報委員会

Table with 2 columns of names and their affiliations. Includes names like 井口 綴, 長谷川 龍翔, 橋本 大輝, etc.

2020 年度 ユースチーム静岡 名簿

令和 2 年 8 月 1 日

Table with 4 columns: 役職, 氏名, 地区, 所属団. Lists names like 宮地 飛鳥, 小林 理来, 藤島 沙公良, etc.

# おしらせコーナー

## 《 定型訓練 》

### コミッショナー研修所静岡第15期

- 日 時: 令和2年11月21日(土)  
~11月23日(月・祝)
- 場 所: MOA大仁研修センター
- 申込み: 10月23日(金)まで 県連必着

### ボーイスカウト講習会静岡第608回 清水

- 日 時: 令和2年11月29日(日)
- 場 所: 静岡市清水区興津生涯交流館
- 申込み: 11月15日(日)まで  
必着

### ボーイスカウト講習会静岡第606回 伊東

- 日 時: 令和2年11月1日(日)
- 場 所: 伊東市生涯学習センター中央会館
- 申込み: 10月18日(日)まで  
伊東地区事務局長必着

### ボーイスカウト講習会静岡第609回 富士宮

- 日 時: 令和2年12月6日(日)
- 場 所: 富士宮市咲花区民館
- 申込み: 11月22日(日)まで  
必着

### ボーイスカウト講習会静岡第607回 浜松

- 日 時: 令和2年11月22日(日)
- 場 所: 浜松市立青少年の家
- 申込み: 11月8日(日)まで  
浜松東地区指導者養成委員長必着

### ボーイスカウト講習会静岡第610回 磐田

- 日 時: 令和2年12月13日(日)
- 場 所: 磐田市向笠交流センター
- 申込み: 11月29日(日)まで  
必着

## - 《 定型外訓練 》 -

### 県連盟定型外訓練 東部会場

- 日 時: 令和2年11月21日(土)  
~11月22日(日)
- 場 所: 国立中央青少年交流の家
- 申込み: 10月23日(金)まで 県連必着



### 令和3年 新年賀詞交換会 中止のお知らせ

令和3年1月9日(土)に予定していましたが、令和3年賀詞交換会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止させていただきます。何とぞご理解のほど宜しくお願い致します。

## ボーイスカウトへのお問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局 (☎ 054-255-6185) まで

ホームページもご覧ください。 <http://bs-shizuoka.com>

## 編 集 日 記

「ボーイスカウトとあそぼう!ワクワク自然体験あそび」は新型コロナウイルス感染症への対応が及ぼす子供たちの健全な成長への影響を考慮した「子どもの自然体験活動推進全国キャンペーン」のひとつとして文部科学省より日本連盟が受託したもので来年3月末まで予定されています。これはボーイスカウト啓発・募集活動に直結するものであり、各地区・団の協力をよろしくお願い致します。詳細につきましては県連事務局にお問い合わせ下さい。

広報「たちばな」編集部 杉山 文朗

広 報 “たちばな” 2020 年 10 月

発 行 所 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟  
〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 1-70-1  
県青少年会館内  
TEL054-255-6185 FAX054-255-6186  
<http://bs-shizuoka.com>

編集責任者 組織拡充・広報委員長 川島 一郎

印 刷 三富印刷株式会社  
静岡県浜松市東区上新屋町 30-1 TEL053-467-4678

発行部数 4,200 部